

法人会ニュース

発行日
平成 30 年 12 月 20 日
公益社団法人平戸法人会
〒859-5113
長崎県平戸市木引田町
433 番地

社団化 30 周年記念公開セミナー 出張！ゴルゴ塾 命の授業



12月 15 日（土）平戸文化センター大ホールにて 1,000 名弱の来場者を前に熱い命の授業が開かれました
ご後援頂きました関係団体各位、広報・準備にご尽力頂きました関係者、ご来場の皆様に感謝申し上げます



青年部会活動

- ①ソフトボーラー親善試合 今年も 2 対 1 で平戸税務署の勝利でした
②青年の集い岐阜大会 3 人で租税教室の向上について学習しました

女性部会視察研修 11月 28 日（水）田平町合同産業㈱ 大宰府市かまど神社 見学



行動する法人会



一平成31年度税制改正に関する提言一

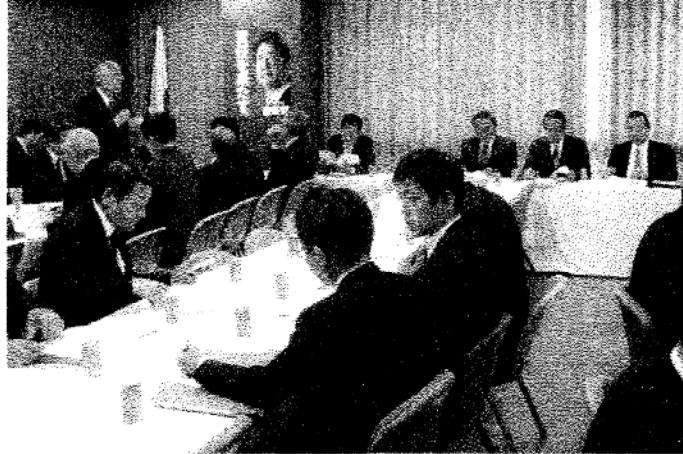
全法連では、平成31年度税制改正に向け、政府・政党に対して提言活動を行いました。

自 民 党

予算・税制等に関する政策懇談会（税務・中小企業）

11月7日

財政・金融・証券関係団体委員長 津島 淳 氏 他



公 明 党

税制改正要望等ヒアリング

11月14日

財政金融部会長 竹内 譲 氏 他



国 民 民 主 党

第二部会（財金・総務・決算）税制改正団体ヒアリング

10月30日

財金・総務・決算部会長 小林 正夫 氏 他



立憲民主 党

財務金融部会・税制調査会 税制改正要望に関するヒアリング

11月22日

財務金融部会長 川内 博史 氏 他



財 務 省

10月25日

財務副大臣 鈴木 馨祐 氏

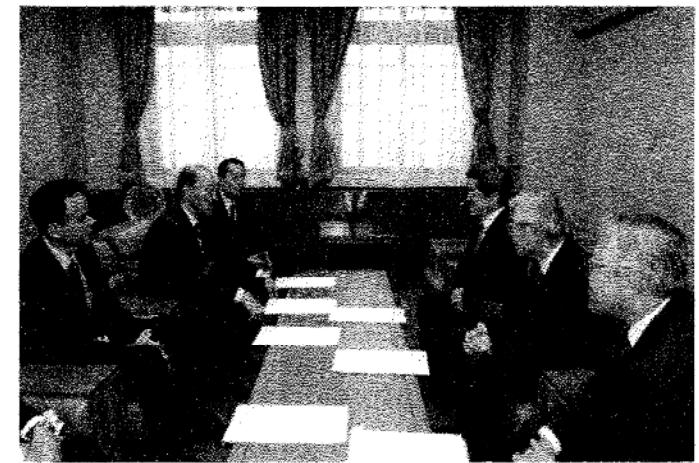


左から 鈴木副大臣、柳田税制委員長、松崎専務理事

国 稅 厅

表敬訪問 12月6日

長 官 藤井 健志 氏
次 長 並木 稔 氏
課税部長 重藤 哲郎 氏



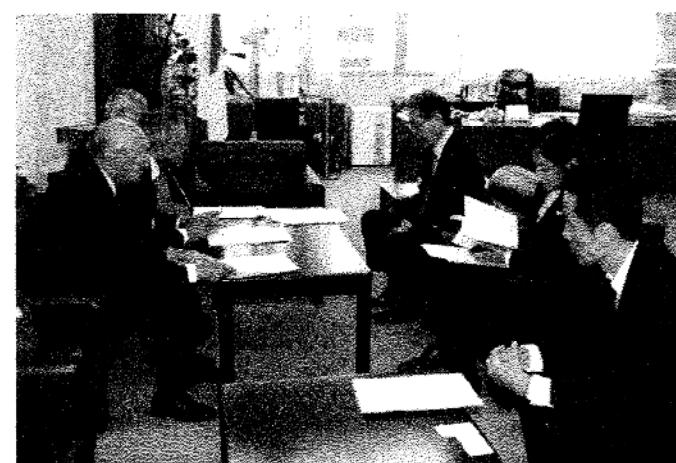
左奥から重藤課税部長、藤井国税庁長官、並木次長
右奥から小林会長、柳田税制委員長、松崎専務理事

中 小 企 業 厅

10月22日

長 官 安藤 久佳 氏

事業環境部長 木村 聰 氏

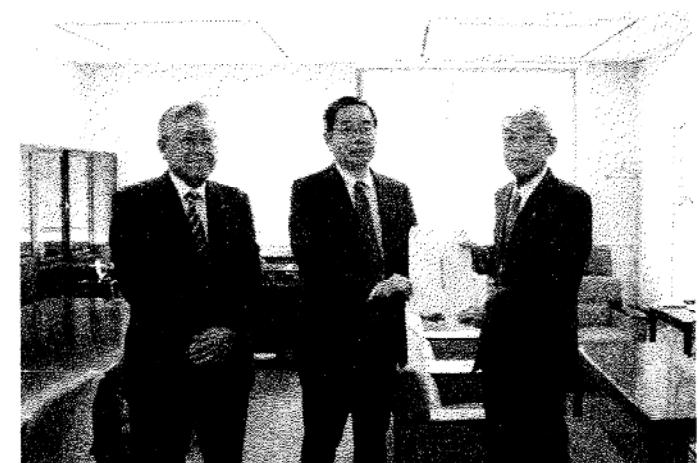


右奥から 安藤中小企業庁長官、木村事業環境部長
左奥から 柳田税制委員長、松崎専務理事、長谷川税制副委員長

総 務 省

11月1日

自治税務局長 内藤 尚志 氏



右から 柳田税制委員長、内藤自治税務局長、松崎専務理事

ダイバーシティ雇用を実現する組織をつくる

雇用問題コメンテーター 長嶋俊三

◎職務再設計はダイバーシティ実現のツール

これまで高齢者にやさしい職場をつくる職務再設計にふれてきたが、高齢者に働きやすいということは若い社員、女性にはもっと働きやすいわけで、職務再設計は、ダイバーシティ管理のためのツールでもあるといえる。職務再設計の基本的な考え方は、(1)高齢者の作業負荷を高めるような設計をしてはならない。負荷の増大は、高齢者に苦痛を、会社には労働災害や不良品を生む原因になる。(2)高齢者が持っている機能や能力で本人にとって使うことが望ましいものは、おおいに発揮できる状態にしたほうがよい。(3)これから開発できる能力は何か、という可能性が追求できる方向での再設計も必要である。現時点で持っている高齢者の特性をベースにした職務拡大を行い、そのための能力開発、教育訓練も検討されなければならない。

◎職務再設計を実施する組織づくり

職務再設計を実施する際のポイントが3つある。(1)実施する時は、全社的に取り組む姿勢が大事である。仕事は単独で成り立つものではなく、前後工程と相互に関連しているため、一部の仕事だけを取り出して改善しても実効が上がらない。また、これを実施する事務局組織もその視点から考える必要があり、事務局構成メンバーも人事担当者のほか、現場の担当者を含めるなど多角的な知識を集約したプロジェクトチームにするのが一般的だ。つまり、職場の人間全員を巻き込んだ活動が望まれる。(2)改善案の作成は、現場の声を大切にする。(3)現場の作業グループによる小集団活動が効果的である。問題点の発見から改善案の作成、改善効果の評価という一連の活動は、実際に改善される職場の作業者が全員参加して、自主的、主体的活動として取り組むことがもっとも効果的である。

◎若い社員が高齢者向きの職場をつくる

農業機械など特注品を製造している徳島市のA試作所では、若い社員がリーダーとなって改善をすすめ、成功させている。同社は品質と技術の高さが生命線の技術者集団で、社員構成では若年者と高齢者のふたつの塊がある。この世代間の接着剤の役目を果たしたのがISO9001の取得のために行った品質管理活動で、それは不良品を減らすだけでなく、経営品質目標へ、部門ごとの目標へ、さらに個人目標へと落とし込んだ。この活動と同時に小集団活動も実施され、30歳代の社員をリーダーに全社的な改善が検討され、バリアフリーに対応した新社屋づくり、高齢者の負荷を軽減する新しい機器の導入、高齢者向きの専用職場づくりを行った。若い社員と高齢社員が職場の働きやすさについて話し合ったことで技術が継承されただけでなく、技術レベルが一段上に押し上げられ、目標管理も個人レベルにまで落とし込んどことで、達成度に応じた賃金制度に改定され、働き甲斐も生まれた。

【筆者紹介】

長嶋俊三（ながしま・しゅんぞう） 1947年生まれ。明治大学卒。新聞記者、TVディレクターを経て、79年より（財）高年齢者雇用開発協会発行の月刊誌『エルダー』の編集を創刊から担当。2011年6月、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構を退職。著書に『60歳からの仕事』（清家篤慶應義塾大学教授と共に著、講談社刊）、『エージレス就業社会』（共著、日本能率協会マネジメントセンター刊）などがある。

再エネは野心的な目標設定を

日刊工業産業研究所 所長 岡田直樹

政府は2030年度までの中長期的なエネルギー政策の方向性を示す「エネルギー基本計画」を4年ぶりに改定した。原子力発電は今回も「重要な基幹電源」に位置付けながら、世論に配慮し、電力業界が期待した新設や増設の是非には言及しなかった。注目点は再生可能エネルギーの「主力電源化」を打ち出したことだが、30年時点の電源構成比率は22-24%と、温暖化防止の国際的枠組みである「パリ協定」の発効前に決めた比率を据え置いた。計画をまとめた経済産業省資源エネルギー庁の担当者は「カチッとした目標を決めるのではなく、曖昧に見えるかもしれないが、その時々の状況に応じて柔軟に決めるプロセスの方が50年に向けてはより現実的」と従来の計画改定とはアプローチが異なる点を強調する。良く言えば自由度があり、厳しく言えば方向性に欠ける、評価の分かれ内容になった。

筆者は今回の改定から浮かび上がる課題は3点あると考える。まずは政策決定プロセスが旧態依然としていることだ。固定価格買い取り制度をテコに太陽光や風力など再エネが普及するのに伴い、自治体や一般企業といった既存の電力業界に属さない「ノンプロプレーヤー」が増え、消費者が主役の電力自由化も幕を開けた。環境が様変わりする中でエネルギーの専門家を中心に改定した計画が果たして国民の理解や支持を得られるのか。政府はもっと幅広い分野の産業人や有識者から意見を聞くべきだろう。

また福島第一原発事故から7年が経過し、国民の電力問題に対する関心が急速に薄れてきていることに不安を禁じ得ない。原発が稼働しなくても夏季の電力需要ピーク時を乗り切れるという安心感が定着しつつある一方で、電力の8割強を火力に依存し、二酸化炭素の排出量が高止まりしているという「不都合な真実」からは目を背けがちだ。電力会社による再エネ買い取り費用を消費者が負担する再エネ賦課金が、標準的な家庭で年間約1万円に膨らんでいることも、消費者の理解が進んでいるとは言い難い。政府には地方公聴会の開催など国民が電力問題について自ら考える機会を積極的に提供してもらいたい。

さらにはモノづくりの担い手になりえる脱炭素ビジネスを後押しするため、再エネはもっと野心的な目標を設定すべきだ。「日本が強いのは地熱発電くらい。風力発電は中国や台湾の躍進が著しく、すでに周回遅れの状況」（有識者）と危惧する見方もある。特に風力発電機は部品点数が1～2万点に上ることから、中小企業も含め大きな産業のすそ野を形成し、地方の雇用を創出する可能性を秘めているだけに、発電業者や設備機器メーカーが予見可能性を高め、中長期的な投資をしやすくなる環境づくりが必要だ。

9月6日に発生した最大震度7の北海道胆振東部地震では、火力で道内最大の苫東厚真発電所が被災。系統発電所も設備保護のため順次停止し、道内は全域が停電する「ブラックアウト」に追い込まれた。電源の一極集中は経済性の高さとは裏腹に、地震に対する脆弱性を露わにした。日本のような自然災害多発国では防災・減災のためにも、再エネを活用し、電源の分散化を進める必要がありそうだ。

原子力政策の迷走状態にはそろそろ終止符を打たなければならぬ。国民の理解を得ながら原発をどう残し、暫くは主力電源として頼らざるを得ない火力の環境負荷をいかに低減していくか。再エネを主力電源化するには蓄電池の低価格化や発電業者を対象にした入札制度の導入など課題が山積する。来年6月は大阪市でG20サミット、20年には温暖化対策長期戦略の国連提出を控え、残り時間は限られる。温暖化対策と表裏の関係にあるエネルギー政策を、脱炭素ビジネスが活気づく成長戦略へ昇華したい。

【筆者紹介】

岡田直樹（おかだ・なおき） 略歴 1984年、日刊工業新聞社入社。記者として、金融・電機・情報通信などの産業界、総務省・経済産業省などの官庁を担当。デスク、論説委員、論説委員長などを経て、日刊工業産業研究所長。埼玉県出身、59歳。

カブトムシの角を作る遺伝子を特定、進化の解明の手がかりに

産経新聞科学部記者 伊藤壽一郎

昆虫の王様とも呼ばれる「カブトムシ」は、子供からも大人からも大人気です。その特徴の立派な角は、長い間どのように作られているのか謎でしたが、最近の基礎生物学研究所（愛知県岡崎市）などの研究で、11種類の遺伝子が形成に関わっていることが分かりました。驚いたことに、これらは多くの昆虫が持ち、本来は頭部や脚を作る遺伝子でした。それがカブトムシでは、新たな役割が追加されたらしいのです。生きものの進化って不思議ですね。

■本来は頭部や脚を作る遺伝子

カブトムシの仲間は、世界中に約1500種いて、角の形や生える場所はさまざまですが、主に雄の武器として発達してきました。日本でおなじみのカブトムシの雄は、頭部から前方に伸びる大きな角と、胸部の背中側に突き出た小さな角を持っています、角はさなぎになる前の幼虫段階で形成が始まります。

研究チームは、幼虫が持つ角のもとになる器官の遺伝子を、次世代シークエンサーという最新の解析装置で詳しく調べました。雄と雌、または頭部と胸部で働き方が異なる遺伝子1068種類を抽出。角形成に重要な役割を果たすとみられる49種類を選び、それについて、遺伝子を機能させない薬剤を注射した幼虫を作り育てました。

成虫になった際、どのような角ができるか観察してみると、11種類で異変が。頭部の角が短くなったり先端の枝分かれの形が変わったりしたほか、胸部の角がなくなったり巨大化したりなど、明らかな変化が生じたのです。このためカブトムシの角の形成は、少なくともこれら11種類の遺伝子が関係していることが分かりました。

■糞虫の角と共通のメカニズム

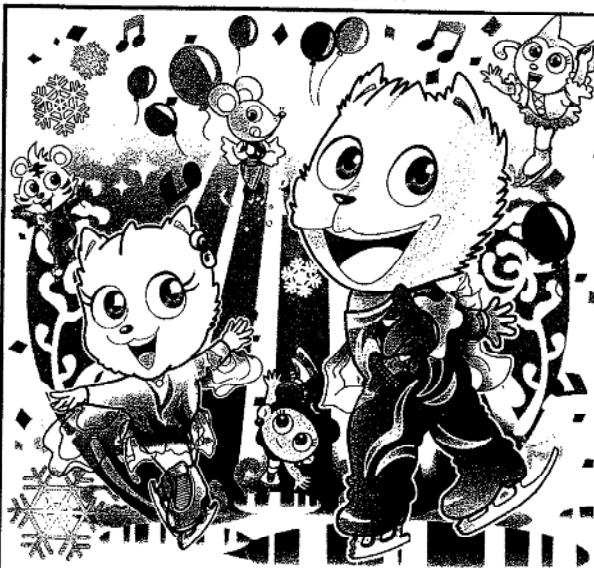
チームがさらに、11種類の遺伝子を詳しく調べてみると、大半が頭部の形成や脚の形成で重要な機能を担っているものだと分かりました。多くの昆虫が共通して持っている遺伝子で、通常は角を形成しません。ですが進化の過程で、カブトムシでは角を形成する機能も獲得したらしいのです。その結果、カブトムシの雄は、子孫を残すのに必要な雌を確保するため、他の雄と角を使って戦うことができるようになりました。

カブトムシが属するコガネムシ科の昆虫の大半は、あまり競争がないせいか、角がありません。でも、主に哺乳類の糞を食べる「糞虫（ふんちゅう）」の仲間の雄は発達した角を持っていて、ダイコクコガネやエンマコガネなどが知られています。

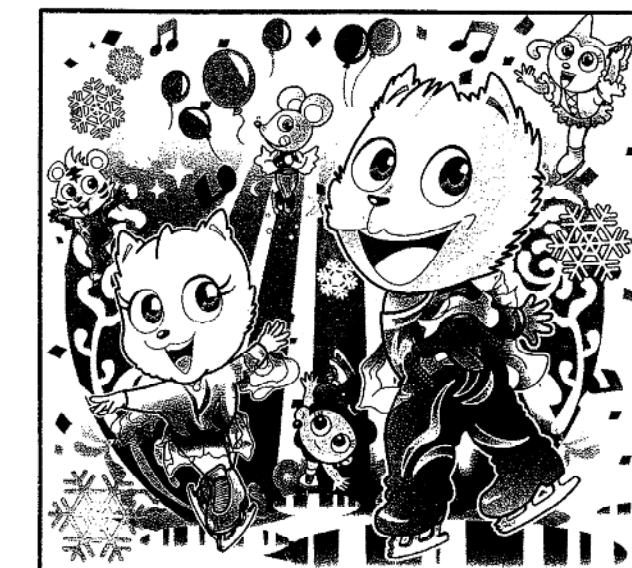
カブトムシと糞虫は、約1億5000万年前に共通の祖先から分かれました。その時期は人類と、コアラやカンガルーの祖先である有袋類とが分かれたのと同じくらい古いため、角はそれぞれ独立した進化過程で獲得したと考えられていました。

けれど以前の研究で、エンマコガネでは頭部や脚を作る遺伝子の一部が角形成に関与していることが分かっていました。そして今回の基礎生物学研究所の成果で、これはカブトムシの角を形成する遺伝子と共にすることが判明。系統的に遠く、角の成り立ちも異なると考えられていたカブトムシと糞虫が、同様の機能を持つ遺伝子グループを、同じように角の獲得に利用する「共通メカニズム」を持っている可能性が見えてきたのです。

基礎生物学研究所では「角形成のメカニズムをさらに詳しく調べれば、昆虫が持つさまざまな角がいかに獲得され多様化していったのか」という進化の謎の解明につながる。角を持つ、持たないの差がどのようにして生じたのかも分かってくるかもしれない」としています。



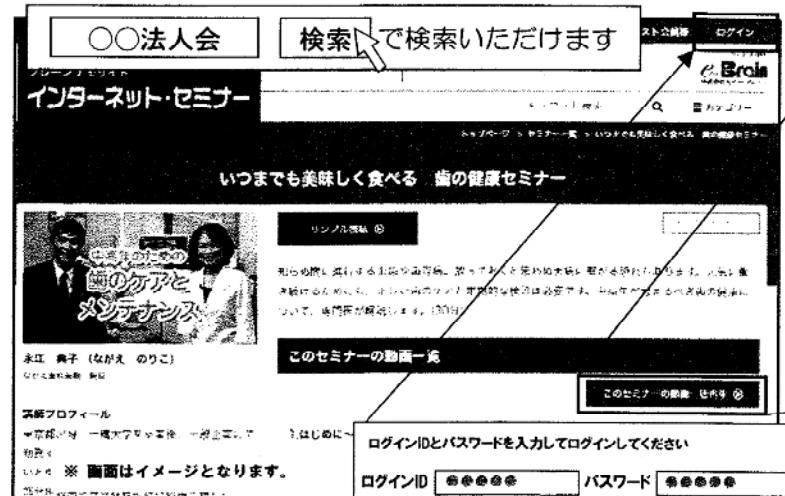
七つの間違い探し



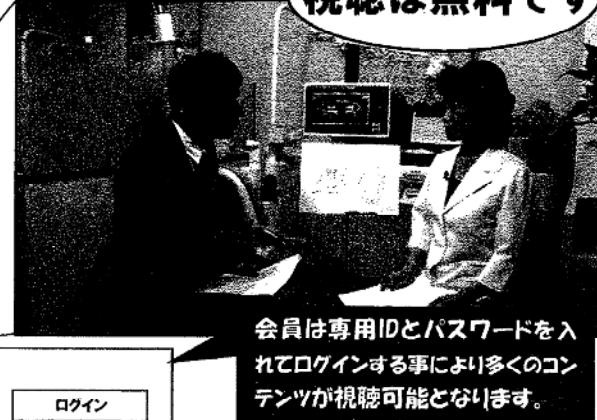
法人会よりインターネットセミナーのご案内

平戸法人会のホームページから無料でセミナーをご覧いただけます

平戸法人会で検索



視聴は無料です



会員は専用IDとパスワードを入れてログインする事により多くのコンテンツが視聴可能となります。

ID・パスワードは

会員ID:hj3609 パスワード:3937

会員の方は500タイトル以上のセミナーが無料で受講できます



セミナー名	講師	分数	セミナー名	講師	分数	
NEW 親子のふれあいから始まることばの教育	高嶋 幸太	30分	一般経営	NEW 良い人材が辞めない会社のつくり方	宮井 英行	40分
若手社員を定着させるとっておきの上司力	前川 由希子	15分		NEW 経営者・後継者必見！会社を“繋げる”セミナー～第2回：事業承継の現状～	井手 美由樹	4分
仕事も人生も～負け～にまけるな	新田 渉世	35分		経営の再設計で“働き方改革”を実現	田中 嘉彦 田尻 望	105分
必ず伝わる文章を書こう（後編）	磯崎 博史	46分		右肩上がりにつなげる事業承継	宮林 幸洋	44分
仕事も家庭もうまくいく生き方改革（後編）	桑井 優子	22分		リスクを減らしてピンチをチャンスに変える会社のつくり方（前編）	藤堂 武久	25分
NEW ★企業訪問シリーズ 6月の森 オーベルジュ 後編	小林 由美	39分	税務・経理	財産を贈与と相続をうまく組み合わせて賢く遣す！	佐伯 優	64分
職人の世界、これからのかたち	原田 宗亮	60分		横山式シンプル・キャッシュフロー計算書でキャッシュの増減理由をつかむ	横山 悟一	64分
2018年の日本経済と株価動向を読む	島 義夫	87分	健康	いつまでも美味しい食べる歯の健康セミナー	永江 典子	30分
2018年に向けて、経済の読み方	吉崎 達彦	77分	その他	勝海舟の“翼”	水野 靖夫	88分

掲載講師やタイトルは変更になる場合がございます。

(★印は一般の方もご覧いただけます。掲載されているタイトルは、ご覧いただけるものの一部です)

お問い合わせは平戸法人会事務局まで TEL:0950-23-3937